

「読み手を意識しながら、意見文を書く」

～自分が伝えたいことについて、根拠を明確にして書く～

意見文を書く際に、資料の中にある情報を自分が伝えたいことの根拠として用いて、読み手に分かりやすく書くことに課題が見られました。そこで、本授業アイデア例では、読み手を意識しながら、集めた資料の中にある情報を根拠として用いて、意見文を書く学習を提案します。資料の中にある情報が、自分の伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかを検討した上で文章を書くとともに、書いた文章を観点に沿って読み合い、よい点や改善点について交流することを通して、自分が伝えたいことについて、根拠を明確にして書く力を身に付けることを狙いとしています。

課題の見られた問題の概要と結果

3 意見文を書く（地域の店）

3 二 正答率 **78.0%** 広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える。

学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 B 書くこと ウ

授業アイデア例

学習の流れ

「読み手を意識しながら、意見文を書く」ための学習の見通しをもつ。
意見文のテーマに沿って自分が読み手に伝えたいことを決め、伝えたいことにふさわしい根拠について考える。
各自で必要な資料を集める。
(第1時)

資料にある情報が、それぞれの伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかについて、グループで助言し合う。
助言を踏まえ、意見文の下書きをノートに書く。
意見文の下書きを観点に沿ってグループで読み合い、それぞれのよい点や改善点について交流する。
(第2, 3時)

グループで交流した内容を踏まえ、各自で意見文を完成させる。
学習を振り返る。
(第4時)

(言語活動) 読み手を意識しながら、意見文を書く。

授業前の教師の準備

3二についての生徒の解答の状況を「解答類型」(平成31年度(令和元年度) 報告書 中学校 国語)に照らして把握する。特に、以下の「解答類型」の生徒の解答の状況に着目する。

●「解答類型1」の生徒

自分が伝えたいことについて資料の中から根拠となる情報を取り出して正確に書くことはできているが、自分が伝えたいことの根拠として読み手に分かりやすいように書いていない。

●「解答類型4」の生徒

資料の中にある情報を、自分が伝えたいことの根拠として用いて書くことができていない。

第1時

1 学習の見通しをもつ。



教師

完成した意見文は、多くの生徒が読めるように教室の前などに掲示します。それぞれが伝えたいことやその根拠について、読み手が共感したり納得したりすることができるように、個人で考えたりグループで助言し合ったりしながら進めます。

2 意見文のテーマに沿って自分が読み手に伝えたいことを決め、伝えたいことにふさわしい根拠について考える。

3 各自で必要な資料を集める。

第2時, 第3時 ※ 第1時と第2時の間に一定の期間を置くなどの工夫をする。

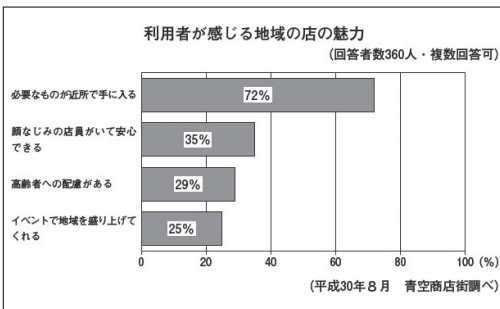
意見文のテーマの例

- 地域と私たちとのつながり
- 地域の伝統を守ることにについて
- 身近なマナーについて

など

4 資料にある情報が、それぞれの伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかについて、グループで助言し合う。

(ここでは、平成31年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語3を例として取り上げて、その流れを示す。)



Aさんが住んでいる地域の広報誌の一部

「Aさんが伝えたいことの根拠についての助言の例」

私は、意見文の中で、地域の店は必要であることを伝えようと思います。その根拠として、インターネットにはない地域の店の魅力の例を示したいのですが、「必要なものが近所で手に入る」と回答している人が最も多いので、この情報を用いて書こうと思います。

「必要なものが近所で手に入る」は72%の人が回答しているので、数値としては説得力があると思います。



Aさん

足りなくなった文房具などもすぐに用意することができるので、「必要なものが近所で手に入る」というのは、本校の生徒も共感しやすいと思います。

⑤ ④で得た助言を踏まえ、意見文の下書きをノートに書く。

〔Aさんの意見文の下書きの例〕 (①から⑤は、段落の番号。)

- ① 最近、我が家ではインターネットを利用して買い物をする機会が増えている。それは、店に行かなくても豊富な商品を選べる上、重い荷物を持たなくてよいからだ。母も「便利になった。」と喜んでいる。これは、インターネットでの買い物ならではのことだ。しかし、いくらインターネットが便利でも、皆が買い物の多くをインターネットで済ませるようになったら、地域の店はいったいどうなってしまうのだろうか。
- ② 地域の店はこれからも必要だ。なぜなら、地域の店には、インターネットでの買い物にはない魅力があるからだ。
- ③ 私は昨年度、学校の近くの店で職場体験をした。その店では、インターネットでは出回らない、地元の特産品を販売していた。私が自宅で使っている箸もその店で買ったもので、地元の木で作られている。他では買えないその土地ならではの商品を、手に取って選ぶことができるのは、地域の店の魅力だ。
- ④ また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、「必要なものが近所で手に入る」という点も地域の店の魅力であると考えている。
- ⑤ 我が家でも買い物の仕方を見直し、インターネットだけでなく地域の店も積極的に利用し、その店を通して地域の魅力をどんどん見付けていきたい。皆さんも毎日の暮らしに目を向けて、地域とのつながりについて改めて考えてみてはどうだろうか。

⑥ ⑤で書いた意見文の下書きを観点に沿ってグループで読み合い、それぞれのよい点や改善点について交流する。

〔「Aさんの意見文の下書き」についての交流の例〕

第③段落には職場体験のこと、第④段落には資料の中から取り出した情報を書きましたが、私が伝えたいことの根拠としてどうでしょうか。

第③段落に書かれているAさんの体験に共感できます。第④段落で用いている情報については、具体的な数値も示した方が、説得力があると思います。



「必要なものが近所で手に入る」ことが、なぜ地域の店の魅力なのかを読み手に分かるように、説明を加えた方がよいのではないのでしょうか。



読み合う際の観点の例

- ア 自分の伝えたいことにふさわしい根拠が示されているか。
- イ 資料の中から根拠として取り出した情報が正確に書かれているか。
- ウ 読み手を意識し、自分が伝えたいことの根拠として十分な内容が示されているか。 など

第3時終了後の教師の分析

第3時終了後に、ノートの記述内容を分析する。

授業前に把握した「解答類型1」や「解答類型4」に該当する生徒が、次の観点についてできているかどうかを見る。

- 資料の中から自分が伝えたいことの根拠としてふさわしい情報を取り出して、正確に書いている。
- 取り出した情報について、自分が伝えたいことの根拠であることが分かるように書いている。

第3時終了後に不十分だった生徒については、第4時の意見文を書き直す様子を観察し、自分が伝えたいことの根拠として十分な内容が示されているかどうかについて考えさせるなど、必要に応じて指導する。

第4時

※ 必要に応じて、資料を再収集することも考えられる。

⑦ ⑥で交流した内容を踏まえ、各自で意見文を完成させる。

〔「Aさんの意見文の下書き」の第④段落を書き直した例〕 ※ 赤字は、書き直した部分。

- ④ また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、「必要なものが近所で手に入る」という点に着目している人が七十二パーセントいる。実際に、私も足りなくなったり急に必要になったりした文房具などを近所の店に買いに行くことがある。このようなことも、地域の店の魅力であると考えている。

⑧ 学習を振り返る。

本授業アイディア例

活用のポイント!

- 「平成28年度【中学校】授業アイディア例」P.3「要望する文章を書こう」と関連させて指導することも考えられる。